

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会

プライマリ・ケア認定薬剤師研修会＋生涯学習委員会

「フレイル・サルコペニアとリハビリテーション栄養」

「薬と摂食嚥下～リハ栄養を添えて～」

(東京 2017 年 3 月 20 日 月曜日・春分の日)開催案内

【一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会は日本医学会の第 109 分科会です。そして、プライマリ・ケア認定薬剤師制度は公益社団法人薬剤師認定制度認証機構(CPC)から「特定領域」の認定制度としての認証(認証番号 P02)を取得いたしております。】

超高齢社会の日本では、フレイル・サルコペニアの高齢者が増加しています。重要な予防的リハ栄養と薬と摂食嚥下について講義とグループワークで基礎から実践能力を高めまします。時代の求める薬剤師の臨床能力を飛躍的に高める研修会です。2017 年 8 月のプライマリ・ケア認定薬剤師認定試験直結の必須領域でお届けします。

(細則による必須領域 A, D, E, J)

要 項		
1	主 催	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア薬剤師認定制度委員会 + 生涯学習委員会
2	研修開催日	平成 29 年 3 月 20 日(月曜日・春分の日)
3	研修会場	アーバンネット神田カンファレンス 2階2A 〒101-0047 東京都千代田区内神田三丁目 6 番 2 号 アーバンネット神田ビル 2 階 案内図 http://kanda-c.jp/access.html
4	認定単位	薬剤師:4単位(認定薬剤師単位)、医師:5単位(更新のための医師単位)を付与
5	受講資格	薬剤師、医師、歯科医師、看護師、医療職、医療関係者
6	定員	72名(スモールグループ形式)
7	受講申込	締切り:平成 29 年 2 月 27 日(月)午後 5 時 ホームページからの申込による先着順となり、定員になり次第締切ります。 電話、ファクシミリ、メールによる申込は受付けておりません。
8	受講振込	申込を受理後、順次ご入金方法についてメールでご案内させていただきます。 ※ 指定期日以内にお振込みの確認ができない方は、キャンセル扱いとなりますのでご留意願います。
9	受講料	11,000 円 但し、日本プライマリ・ケア連合学会会員は 9,000 円 ※ 受講料入金後のキャンセル又は欠席の場合、原則として受講料の返金はできません。
10	情報交換会 (先着 30 名)	3 月 19 日(日) 17 時 10 分より 会場:ブラスリー セント・ベルナルデウス(アーバンネット神田ビル 1F) 希望者は受講申し込み時にお申し込みください。料理+飲み放題で参加費 5,000 円 ※3 月 19 日(日)の研修会受講申し込み時に、情報交換会へ「参加」とされた方は、 重複して申し込みされないようご注意ください。
申し込み先 : 日本プライマリ・ケア連合学会事務局担当係 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀 1-4-8 日栄ビル 703A 有限会社あゆみコーポレーション内 TEL:06-6449-7760 FAX:06-6441-2055 jpc@ayoume.jp		

プログラム

2018年3月20日(月曜日)

9:00～	受付
9:20～10:50	①「フレイル・サルコペニアとリハビリテーション栄養:講義」 講師:若林秀隆 超高齢社会の日本では、フレイル・サルコペニアの高齢者が増加している。健康寿命の延伸には、フレイル・サルコペニアの時点で発見して、ADLに障害が出ないように、運動と栄養を主とした予防的リハ栄養が重要である。一方、重度のサルコペニアでADLや嚥下機能に障害を生じた場合には、攻めの栄養管理とリハの併用が重要である。フレイル・サルコペニアとリハ栄養に関する総論的な講義と、いくつかの課題についての話し合いを行う。 (細則による必須領域:A,D,E,J)
11:00～12:30	②「フレイル・サルコペニアとリハビリテーション栄養:症例検討」 講師:若林秀隆、豊田義貞 フレイル・サルコペニアの時点で発見することは、常にその存在を疑って評価すれば可能である。しかし、発見後の対応を一職種のみで行うことは容易ではない。特にフレイルの場合には、なぜフレイルになっているか、身体面だけでなく認知面、社会面のフレイルはないかも評価しないと、適切な対応につなげにくい。そのため、実際には多職種連携での介入が重要である。フレイル・サルコペニアの高齢者を例とした症例検討について、グループワークを行う。 (細則による必須領域:A,D,E,J)
12:30～13:20	昼食 (各自でご持参ください)
13:20～14:50	③「薬と摂食嚥下～リハ栄養を添えて～:講義」 講師:豊田義貞 地域医療の大半を占める経口内服治療において、単に認知機能のみに焦点をおいて服薬の是非を評価していないだろうか。本講義では栄養状態や、摂食嚥下機能を主とする身体機能が、薬学管理とどう影響し合うかについて講じる。例えば、嚥下機能の理解に製剤学的視座を加えることによって可能となる評価法や内服支援がある。午前中に講じられたリハ栄養のキーワードをベースに、薬と患者の全体像がどのように関連するか、新しい視点を紹介したい。 (細則による必須領域:A,D,E,J)
15:00～16:30	④「薬と摂食嚥下～リハ栄養を添えて～:事例検討」 講師:豊田義貞、若林秀隆 今や多職種によって横断的に行われる栄養支援だが、在宅を例とする地域医療においては環境・個人因子が大きく影響し、支援拒否や経済・地理的問題など、病院医療とは異なる理由による困難事例も少なくない。そうした背景のもと、様々な理由で長期間に摂食嚥下機能障害を呈したある患者について、そのContextを時系列に書き起こしたものを用意する。いつフレイルに陥ったのか、理由は、最適な介入とは、等々。これらについてグループワークを行う。 (細則による必須領域:A,D,E,J)

20分以上の遅刻・早退は原則単位になりませんのでご注意ください。

【講師紹介】

若林秀隆(医師) 横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテーション科 診療講師

豊田義貞(薬剤師) 株式会社龍生堂本店 地域医療連携室